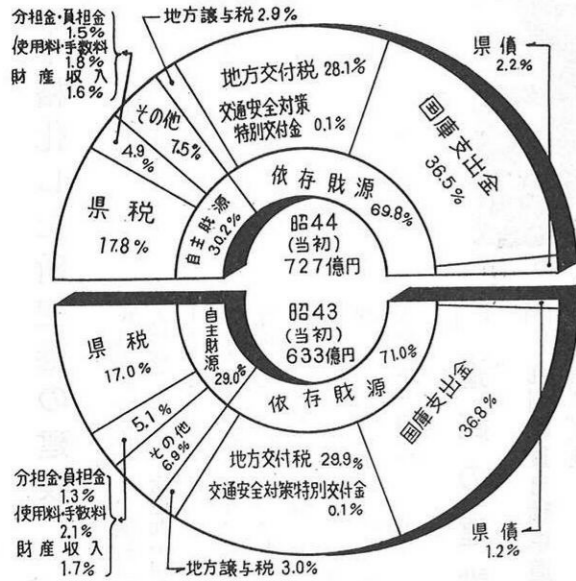
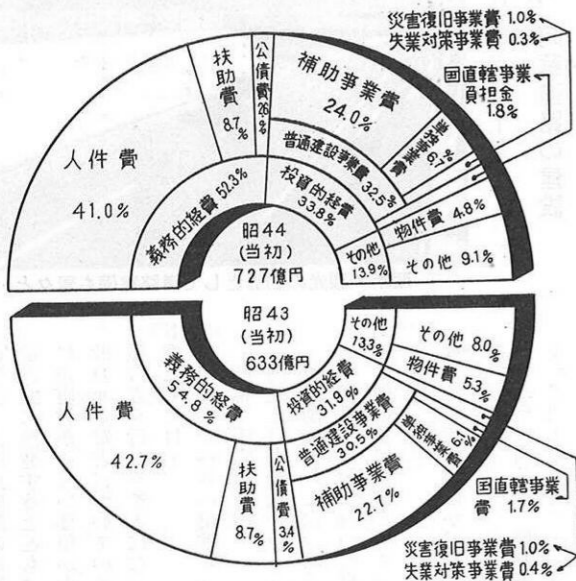


### 歳入予算構成比



### 歳出予算性質別構成比



も県経済の発展を裏書きするものといえる。しかし、まだ補助金や地方交付税などの財源の約六七割は国に依存している現状であり、今後とも地域開発などを強力におし進め、県民所得の向上発展をはかる必要がある。

次に歳出については、その内容を経費の使い方の性質によって区分した八第二表Vで見てもよい。おおまかに分けて、建設事業関係を中心とした投資的経費が前年より金額にして四十四億円、率にして二二%の増加を示していることがわか

る。したがって道路、農業、高原開発等への公共投資がひきつづきさかんに行なわれ、本年度の予算の特色のひとつとして「積極的公共投資飛躍予算」といわれる所以である。また次の八第三表Vでは歳出を部門別

に分けているが、教育費が最大のウェイトを占め、ついで農林水産業費、土木費などの順となっている。以下、四十四年度当初予算の内容を主要な項目にしたがって、重点的に展望してみることにしよう。

## 解説

# 新たな県政の飛躍をめざす

## 新年度当初予算

# 727億円

# の

# 使いみち

昭和四十四年度の県政の基本的方向として、地域開発の基盤整備・産業の振興・人づくり・県民福祉の向上の四つの柱がかかげられているが、ことしはこの基本線の上に立って種々の積極的な施策が展開されていく。

ここ数年来、熊本県の経済は、県民をあげての努力により順調な成長をつづけ、最近五カ年間に県民所得はおおむね二倍近くの増加を示し、その伸び率は、全国でも上位にランクされるようになった。前年度において、九州縦貫自動車道が着工され、新空港建設もスタートし、将来にわたっての地域づくりのための重要事業が着々と進展をみている。また、工場場の進出も活発化し、三十九年以来、繊維工業（都築紡績、興国紡績など）、電機工業（三菱電機、九州松下電器など）がつぎつぎと県内に立地し、最近ではアルミ加工の大手工場（不二サッシ）の長洲への進出が決まっている。

一方農業も米、みかん、い草などを中心に、生産所得は順調に伸びている。このような県勢の伸びとあいまって、県の財政も年々拡充し、最近五カ年間に予算総額で七〇%の増加を示している。四十四年度の当初予算は、総額七百二十七億円で、初めて七百億円の大台をこす大型の予算となっている。そのあらましを知るためにまず「歳入」の内訳を第一表で見てもよい。この中で県の自主的な収入の基礎となる県税は、過去五カ年間におよそ二倍となり、百億円を越えることとなった。歳入総額の中の割合も着実に伸びており、四十四年度には一七・八%と、二割の線に近づいている。これは、何より